

目次

1章	はじめに	1
2章	平成30年7月豪雨による真備地区の被災状況	1
3章	倉敷市の見守り支援事業の概要	2
1	倉敷市真備支え合いセンターの設置	2
2	個別訪問の実施状況	2
3	活動の中で大切にしてきたこと（意識していた3つの「つなぐ」）	4
1)	被災者を制度や窓口につなぐ	4
2)	被災者の声を市役所につなぐ	4
3)	被災者と支え合いセンターをつなぐ	5
4	倉敷市の見守り支援事業の特徴・機能（災害ケースマネジメント）	7
1)	多様な職種でチームを構成	8
2)	徹底的なアウトリーチと傾聴	10
3)	支援の仕組みと目線合わせ	11
4)	情報共有システムの構築	13
5)	「生活再建」に向けた支援	13
6)	支え合いセンターだけでは解決できない課題に対する多機関協働の「場」	16
7)	必要な「支援機能」「資源」の創出	21
8)	個別支援から地域支援への展開	26
5	生活困窮世帯、障がい世帯への早期支援の重要性と連携の成果	29
4章	見守り支援事業の中で見えてきた平時から必要な仕組みや機能	32
1	連携・協働を機能させるための仕組みや条件	32
1)	世帯全体を捉える視点	32
2)	機関同士の相互理解	32
2	つながり続けるためのアウトリーチと支援機関同士のネットワークの強化	32
3	課題に応じた支援をオーダーメイドで組み合わせるための分野を超えた連携	33
4	潜在化しているニーズを平素からキャッチできる仕組み	33
5	個別支援で捉えた課題から必要な資源や支援機能創出につなげる仕組み	33
6	社会的なつながりが持てるような働きかけ	33
	あとがき	34
	【事例集】	35
	【巻末資料（統計データ等）】	41